

「勝利を信じた祈り」

～祈り方の確認～

「あなたがたときたら、人を殺してでも欲しいものを手に入れたがるのです。うらやんでも手に入れることができないと、力づくで奪おうとしてけんかをします。神に願い求めることをしないからです。いくら願い求めても手に入らないのは、その目的や動機がまちがっているからです。自分を楽しませることのみ求めているからです。」 ヤコブの手紙5章2、3節[リビングバイブル]

二千年前のあのペンテコステの日、弟子たちは天から送られた聖霊によって満たされました。それは主によって命じられたように、エルサレムに留まり、共に主を待ち望んだからでした。

旧約聖書サムエル記上15章で預言者サムエルはサウル王に語りました。

「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである。あなたが主のことばを捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた」。(22・23節)

また、ダビデは詩篇51篇で、

「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません。」(17節)

主は聖霊様を私たちに与え、その御業をなされます。しかし、私たちの信仰が主の御前に整えられていないと、主は御業をなし得ないのです。

主に従っていく中で、私たちは少なからず、試練に立ち向かわなければなりません。そんなとき、主の導きを仰ぎます。

パウロは主のためと信じて、宣教の働きをしていましたが、二度も主によってその行く手を阻まれました。そして、どうしてだろう？と悩み、試案にくれているときに、主が一つの幻を通して、新たな主の御心を示されました。そして、ギリシャへの道が開かれて、意気揚々と前進していきました。その中で主は大いなる御業をなされましたが、大きな苦しみを伴う試練の中に入られてしまいました。「主に従う道を歩んでいたはずなのに、どうして私はこんなに苦しい目に遭わなければならないのだろうか？」と感じてしまう状況に置かれることがあります。そこで、もう一度、初心に帰って主の前に出て祈り求めます。“どうぞ、導いてください”“どうぞ、力をお与えください”と。すると、主は栄光を現され、主の奇跡がなされていきます。

私たちは絶えず、祈りの中で、初心に帰り、主の御手にすべてを委ねさせられるのです。「わたしではなく、あなたです！」と。主を絶えず礼拝し、求め続けるのです。そして、私たちは前進し続けるのです。パウロと共にいたように、主は私たちと共にいてくださいます。